2022年度

シラバス

四国歯科衛生士学院専門学校

第 47 期生（第 3 学年）

分　　野	専門分野	授業概要	【一般目標】 対象者の異なるニーズに応えることのできる歯科衛生士になるために、歯科衛生過程を用いて歯科衛生業務を統括的に計画実施する臨床応用を学ぶ。 【到達目標】 1．歯科衛生過程の基本的な考え方を説明できる。 2．対象者の問題や原因を把握するための情報収集、情報の処理ができる。 3．歯科衛生診断により対象者の抱える問題を明確化できる。 4．問題の解決方法が計画できる。 5．対象者の問題解決のための歯科衛生介入ができる。 6．問題の解決の過程と結果を判断、評価できる。 【授業計画】 第1回　歯科衛生過程の概要 第2回　歯科衛生過程の展開（事例） 第3回　歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理 第4回　1年生への歯科衛生過程（第1回） 第5回　歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画 第6回　1年生への歯科衛生過程（第2回） 第7回　歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画 第8回　1年生への歯科衛生過程（第3回） 第9回　1年生への歯科衛生過程まとめ 第10回 演習の振り返り
科 目 名	**歯科衛生過程**		
単　　位	1		
時 間 数	30		
授業回数	180分×10回		
授業形態	演習		
開講年度	2022年度		
時　　期	前期・後期		
担当講師 実務経験	船奥律子 歯科衛生士・社会福祉士としての実務経験あり		
成績評価	レポート 歯科衛生過程演習評価		
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

分　　野	専門分野	授業概要	【一般目標】 医科と歯科が連携して行う周術期の口腔機能管理に、歯科衛生士もチームの一員としてかかわる。歯科衛生士は口腔内だけでなく、広く全身の状態を視野に入れながら、口腔と全身の健康を維持し、QOLの向上や在院日数の短縮につなげる。 【到達目標】 1．周術期の口腔健康管理を説明できる。 2．周術期口腔健康管理における歯科衛生士の役割を述べる。 3．全身疾患に関連する口腔顎顔面疾患をあげることができる。 4．歯科診療に関連する全身的疾患について留意点を述べることができる。 5．全身の健康を考えた口腔疾患の予防と指導の方法を説明できる。 【授業計画】 第1回　患者情報の把握 第2回　全身疾患に関連する口腔顎顔面疾患 第3回　歯科診療に関連する全身的疾患 第4回　高齢者および要介護者への対応 第5回　チーム医療・連携医療および周術期口腔機能管理
科 目 名	**全身管理と周術期の口腔健康管理**		
単　　位	1		
時 間 数	30		
授業回数	180分×10回		
授業形態	講義		
開講年度	2022年度		
時　　期	前期		
担当講師 実務経験	多田悦尚（言語聴覚士） 石川久子（歯科衛生士） それぞれの職種で実務経験あり		
成績評価	学科試験		
教 科 書	プリントを配布します		

教科書			
参考資料			

分　　野	専門分野	授業概要	【一般目標】
科 目 名	**歯科診療補助論Ⅲ（講義）**		歯科衛生士として臨床現場で即戦力となるために、3年間の復習を行い、診療の流れに沿った補助に関する知識を習得する
単　　位	1		
時 間 数	15		【到達目標】
授業回数	180分× 5 回		1．診療の手順を説明できる
授業形態	講義		2．診療内容に応じた器材を説明できる
開講年度	2022年度		3．診療補助の注意点を列挙できる
時　　期	後期		4．器具器材の取り扱い方法と取り扱い時の注意点を説明できる
担当講師 実務経験	原　幸 歯科衛生士としての実務経験あり		【授業計画】 第1回　歯科診療補助の一連（保存修復学・歯内療法学） 第2回　歯科診療補助の一連（歯科補綴学） 第3回　歯科診療補助の一連（口腔外科・歯科麻酔学） 第4回　歯科診療補助の一連（矯正・小児・高齢者・障害者） 第5回　歯科診療補助の一連（歯科材料）
成績評価	講義終了時の学科試験（100点）		
教科書 参考資料	歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科材料（医歯薬出版）歯科機器（医歯薬出版） ※その他必要に応じて連絡する		

分　　野	専門分野	授業概要	【一般目標】
科 目 名	**歯科診療補助論Ⅲ（演習）**		さまざまなライフステージや全身疾患を有する患者の歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する
単　　位	1		
時 間 数	30		【到達目標】
授業回数	180分×20回		1．主な全身疾患の特徴と診療での注意点を説明できる
授業形態	演習		2．周術期における口腔機能管理の概要を述べることができる
開講年度	2022年度		3．歯科訪問診療の概要を述べることができる
時　　期	前期・後期		4．治療に応じた歯科診療補助を実施できる
担当講師 実務経験	原　　幸（歯科衛生士） 井内孝次（歯科技工士） 渡邊正知（歯科医師） 各人記載の資格において実務経験あり		【授業計画】 第1回　保存修復時の診療補助　　第11回 TeC作製（直接法）② 第2回　止血処置、歯周パックの取り扱い・鎮静法　　第12回 臨床検査・口腔機能低下症の検査 第3回　エックス線撮影時の診療補助　　第13回 全身疾患を有する患者への対応① 第4回　全顎・連合印象採得と石膏注入①　第14回 全身疾患を有する患者への対応② 第5回　全顎・連合印象採得と石膏注入②　第15回 全身疾患を有する患者への対応③ 第6回　全顎・連合印象採得と石膏注入③　第16回 全身疾患を有する患者への対応④ 第7回　スタディモデル作製（井内孝次）　第17回 周術期における歯科診療の補助 第8回　TeC作製（印象体を利用する方法）①　第18回 歯科訪問診療における対応
成績評価	実技テスト（30） 項目ごとの実技評価（40） 確認テスト（15） その他（レポート・課題等）（15）		
教科書	歯科診療補助論（医歯薬出版）		

教科書 参考資料	歯科材料（医歯薬出版）歯科機器（医歯薬出版） ※その他必要に応じて連絡する		第9回　TeC作製（印象体を利用する方法）② 第10回 TeC作製（直接法）①	第19回 普通救命講習Ⅰ 第20回 小児へのメインテナンス業務（渡邊正知）

3年間の総まとめ臨床の場で即戦力

分　　野	専門分野	授業概要	【一般目標】
科 目 名	**歯科保健指導論Ⅲ（講義）**		これまで学んだ歯科保健指導の基礎と、臨床での体験をまとめ、資格試験に対応できる知識を習得することを目的とする。
単　　位	1		
時 間 数	15		【到達目標】
授業回数	180分× 5 回		1．食品と歯科疾患の関連性を説明できる。
授業形態	講義		2．行動変容の手法を説明できる。
開講年度	2022年度		3．各ライフステージにおける課題と指導の要点を説明できる。
時　　期	前期		
担当講師 実務経験	増田洋子 歯科衛生士としての実務経験あり		【授業計画】 第1回　歯科保健指導の概要のまとめ 第2回　歯科保健指導の基礎知識のまとめ 第3回　対象別の歯科衛生介入のまとめ 第4回　対象別の歯科衛生介入のまとめ 第5回　地域歯科保健活動のまとめ
成績評価	学科試験		
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

分　　野	専門分野	授業概要	【一般目標】
科 目 名	**歯科保健指導論Ⅲ（演習）**		歯科衛生アセスメント、歯科衛生介入としての歯科保健指導の技術をより深く学び、臨床での応用展開をつなげることを目的とする。
単　　位	1		
時 間 数	30		【到達目標】
授業回数	180分×10回		1．口腔衛生の評価と指導ができる。
授業形態	演習		2．口腔機能の評価と訓練ができる。
開講年度	2022年度		3．生活習慣の指導ができる。
時　　期	前期・後期		4．要介護者への口腔健康管理が行える。
担当講師 実務経験	増田洋子(歯科衛生士） 冨永高生（歯科医師） それぞれの職種で実務経験あり		5．口腔を体の中の一部分としてとらえ、健康を支援する視点をもつ。 【授業計画】 第1回　歯科衛生アセスメントとしての情報収集・情報処理 第2回　歯科衛生アセスメントとしての情報収集・情報処理 第3回　歯科衛生介入としての歯科保健指導「口腔衛生」 第4回　歯科衛生介入としての歯科保健指導「口腔衛生」
成績評価	科目終了後の一斉実技試験(30) 授業内での実技試験(40) 確認テスト(15)・提出物(15)		第5回　歯科衛生介入としての歯科保健指導「口腔機能」 第6回　歯科衛生介入としての歯科保健指導「口腔機能」 第7回　歯科衛生介入としての歯科保健指導「生活習慣」 第8回　歯科衛生介入としての歯科保健指導「歯磨剤の活用」
教 科 書	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

教科書 参考資料			第9回　小学校リハーサルに参加 第10回 口の健康から呼吸、体の健康につなげる・あいうべ体操

分　　野	専門分野	授業概要	【一般目標】 歯科予防処置についての専門知識、および態度を修得し、卒業後の臨床応用に発展することができるよう３年間の知識をまとめる。 【到達目標】 1）う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる。 2）歯周病に関連する指標を説明できる。 3）歯面研磨、歯面清掃の意義を説明できる。 4）フッ化物応用の使用薬剤の種類と濃度、およびその取扱い法を説明できる。 5）小窩裂溝填塞材の種類と特徴、適応歯、実施上の注意点を説明できる。 【授業計画】 第1回　歯科衛生予防処置のまとめ①（歯・歯周組織の検査） 第2回　歯科衛生予防処置のまとめ②（スケーリング、ルートプレーニング） 第3回　歯科衛生予防処置のまとめ③（PTC） 第4回　歯科衛生予防処置のまとめ④（フッ化物応用） 第5回　歯科衛生予防処置のまとめ⑤（小窩裂溝填塞法）
科 目 名	**歯科予防処置論III（講義）**		
単　　位	1		
時 間 数	15		
授業回数	180分×5回		
授業形態	演習		
開講年度	2022年度		
時　　期	前期・後期		
担当講師 実務経験	下谷陽子 歯科衛生士としての実務経験あり		
成績評価	1）学科試験（80点） 2）小テスト、提出物（20点）		
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

分　　野	専門分野	授業概要	【一般目標】 歯科予防処置についての専門知識、技術および態度を修得し、卒業後の臨床応用に発展することができるよう３年間の知識、技術をまとめる。 【到達目標】 1）定期的に継続して行う口腔保健管理の意義を説明できる。 2）口腔健康状態を維持するための歯科衛生士の役割が概説できる。 3）対象者が必要とする健康支援を述べることができる。 4）臨床で行う歯科予防処置法の知識が修得できている。 5）臨床で行う歯科予防処置法の技術が修得できている。 【授業計画】 第1回　歯科医療の価値 第2回　カリオロジー 第3回　ペリオドントロジー 第4回　口腔内写真撮影（５枚法） 第5回　シャープニング 第6回　ルートプレーニング 第7回　歯科予防処置のまとめ①（歯、歯周組織の検査） 第8回　歯科予防処置のまとめ②（スケーリング） 第9回　歯科予防処置のまとめ③（小窩裂溝填塞法、フッ化物応用）
科 目 名	**歯科予防処置論III（演習）**		
単　　位	1		
時 間 数	30		
授業回数	180分×10回		
授業形態	演習		
開講年度	2022年度		
時　　期	前期・後期		
担当講師 実務経験	川原博雄（３回） 歯科医師としての実務経験あり 橋本千奈美（３回） 歯科衛生士としての実務経験あり 下谷陽子（４回） 歯科衛生士としての実務経験あり		
成績評価	1）実技試験（30点） 2）項目ごとの実技評価（40点） 3）確認小テスト（15点） 4）提出物の評価（15点）		
教 科 書	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

教科書 参考資料			第10回 歯科予防処置のまとめ④（PTC）

分　　野	基礎分野	授業概要	【一般目標】 生活の中における人間の行動を科学的に捉えることができるようになるために、行動科学や臨床心理学の意義を学ぶ。また、歯科衛生士として、患者と自分を理解するために、より良い人間関係を築けるコミュニケーション能力を身につける。 【到達目標】 1．患者中心の歯科医療を実践するための対人関係の形式、会話態度の知識を修得する。 2．患者中心の歯科医療を実践するための対人関係の形式、会話態度の技法を修得する。 3．患者への接し方を学ぶ。 【授業計画】 第1回　生活行動科学について 第2回　生活行動科学に基づくヘルスカウンセリング 第3回　ヘルスカウンセリングのものの見方 第4回　ヘルスカウンセリング法とは 第5回　ヘルスカウンセリングの基本姿勢 第6回　カウンセリングの技法と展開 第7回　焦点をあててついていく 第8回　効果的な質問 第9回　感情の反映 第10回 技法の統合・まとめと試験
科 目 名	**人の行動と心理**		
単　　位	1		
時 間 数	15		
授業回数	180分× 5 回		
授業形態	講義		
開講年度 時　　期	2022年度 前期		
担当講師 実務経験	中條信義 歯科医師・公認心理士としての実務経験あり		
成績評価	論述式筆記試験		
教 科 書 参考資料	プリントを配布します		

分　　野	専門基礎分野	授業概要	【一般目標】 日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を修得する。 【到達目標】 1．日本の衛生行政と社会保障の体系を説明できる。 2．歯科衛生士の業務と法令および法令遵守について説明できる。 3．歯科衛生士として職場で知らなければならない教養としての社会福祉・社会保険の知識を説明できる。 4．医療・福祉の職種との関連について説明できる。 【授業計画】 第1回　歯科衛生士法の成り立ち、目的、定義と業務 第2回　免許・歯科衛生士名簿、登録・免許証の交付及び届出、相対的欠格事項 第3回　歯科衛生士業務・身分・責任等についての法律 第4回　歯科医療従事者の現況・医療法の成り立ちと目的 第5回　歯科医療とかかわる医療関係者・各職種にかかわる法律 第6回　薬事に関連する法規・地域保健に関連する法規、その他の衛生法規 第7回　社会保障制度と医療保険・介護保険 第8回　社会福祉行政・社会福祉制度
科 目 名	**歯科衛生士と法律・制度**		
単　　位	1		
時 間 数	30		
授業回数	180分×20回		
授業形態	講義		
開講年度 時　　期	2022年度 前期		
担当講師 実務経験	北詰典子 歯科衛生士・社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験あり		
成績評価	学科試験		
教 科 書	歯科衛生士と法律・制度		

教科書 参考資料			第9回　国民の健康状態と受療状況・国民医療費の動向 第10回 全体的な振り返り

分　　野	基礎分野
科 目 名	**生命倫理・医の倫理**
単　　位	1
時 間 数	15
授業回数	180分× 5 回
授業形態	講義
開講年度	2022年度
時　　期	後期
担当講師 実務経験	中條信義 歯科医師・公認心理士としての実務経験あり
成績評価	レポート・ワーク・授業態度 出席状況
教 科 書 参考資料	歯科医療倫理

授業概要

【一般目標】

歯科医療における倫理の重要性を理解し、歯科衛生士の責任と義務に関する基本的な知識や態度、考え方を学ぶと共に、歯科衛生士に求められる職業人としての心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーション技術や行動科学について学習する。

【到達目標】

1．医療倫理とは何かについて簡潔に述べることができる。
2．医療従事者の職業倫理に関する規範について概説できる。
3．インフォームドコンセントの倫理的意義について述べることができる。
4．歯科医療のQOLの向上について説明できる。

【授業計画】

第1回　医療倫理とは
第2回　歯科衛生士としての心構え
第3回　医療倫理をめぐる今日的課題
第4回　インフォームドコンセントの定義と重要性
第5回　QOLの定義と、患者・家族のQOL向上のために
第6回　患者の行動特性と医療従事者の行動特性
第7回　チーム医療の意義と多職種との連携
第8回　医療現場におけるコミュニケーション
第9回　医療現場におけるコミュニケーション
第10回 患者・家族が望む医療のあり方

分　　野	基礎分野
科 目 名	**プレゼンテーションIII**
単　　位	1
時 間 数	30
授業回数	180分×20回
授業形態	講義
開講年度	2022年度
時　　期	前期
担当講師 実務経験	船奥律子 増田洋子 原　　幸 下谷陽子 歯科衛生士としての実務経験や学術大会で研究発表経験あり
成績評価	研究計画・事前学習(20点) 研究計画(40点) 研究内容・発表(40点)
教 科 書	プリントを配布します

授業概要

【一般目標】

これまでの歯科衛生士教育の中で学び、関心を持ったこと、発見したこと、探求したいと思ったことなどをテーマに研究をすすめ、明らかにしたいことを科学的かつ理論的に捉える思考を育てる科目である。

【到達目標】

1．歯科衛生業務を行う上で、関心の分野を明確にできる。
2．研究テーマに関する情報を収集できる。
3．収集した情報を整理分析できる。
4．研究論文が作成できる。
5．研究論文を発表できる。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション
第2回　研究テーマを設定
第3回　研究資料の収集
第4回　研究方法の選択
第5回　研究計画を具体的に計画
第6回　データの集計
第7回　データの資料化
第8回　論文作成
第11回 卒業研究発表
第12回 卒業研究発表
第13回 卒業研究発表
第14回 卒業研究発表
第15回 レポートプレゼンテーション発表
第16回 レポートプレゼンテーション発表
第17回 レポートプレゼンテーション発表
第18回 レポートプレゼンテーション発表

教科書 参考資料			第9回　論文作成 第10回 リハーサル	第19回 レポートプレゼンテーション発表 第20回 レポートプレゼンテーション発表

分　　野	選択分野	授業概要	【一般目標】
科 目 名	**専門分野学習法B**		これまでの基礎知識を補いつつ、臨床で学んだこととを結びつけ、知識を確かなものとする。資格試験にも対応できる自分に合った学習方法を確立する。
単　　位	1		
時 間 数	30		【到達目標】
授業回数	180分×10回		自分の取り組むべき課題を見つける。
授業形態	演習		教科書から答えを見つけ、要点をまとめる。
開講年度	2022年度		繰り返しの学習で、知識が身についたかどうかを確かめる。
時　　期	前期・後期		学科試験合格のための自分に合った勉強法を見つける。
担当講師 実務経験	増田洋子 歯科衛生士としての実務経験あり		【授業計画】 第1回　オリエンテーション 第2回　学習計画 第3回　学習の要点、調べ方、まとめ方 第4回　学習の要点、調べ方、まとめ方 第5回　学習の要点、調べ方、まとめ方 第6回　学習の要点、調べ方、まとめ方 第7回　国家試験勉強法 第8回　国家試験勉強法 第9回　国家試験勉強法 第10回 国家試験勉強法
成績評価	提出物・取り組み		
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

分　　野	選択分野	授業概要	【一般目標】
科 目 名	**ホスピタリティ**		医療の場では医療者も患者も尊厳をもって病気を治すために共に歩む関係である。互いを認め合い、より良い人間関係を築くために、社会人としての心身を整え、おもてなしの心と接遇を学ぶ。
単　　位	1		
時 間 数	30		【到達目標】
授業回数	180分×20回		1．適切な敬語が使える。
授業形態	演習		2．ビジネスマナーを身に付ける。
開講年度	2022年度		3．教えを理解したうえでヨガ、ピラティスを体験する。
時　　期	前期		4．患者が癒される診療室の環境を整えることができる。
担当講師 実務経験	森本みどり（ｷｬﾘｱｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ） 藤中恵子（歯科医師） 丸山葉鼓（ﾌﾗﾜｰﾃﾞｻﾞｲﾝ講師） それぞれの職種で実務経験あり		【授業計画】 第1回　オリエンテーション 第2回　働くことや仕事への理解・よりよい人間関係づくりのために 第3回　敬語の種類・代表的な敬語の使い方・間違いやすい敬語の使い方 第4回　ビジネスの場での言葉遣い・電話応対 第5回　ビジネス文書の書き方・履歴書の書き方 第6回　ヨガの歴史と教え（八支則）・呼吸法と瞑想（チェア） 第7回　ピラティスの歴史とコアの解剖学・ピラティスの実践 第8回　心地よい診療室づくり・アロマテラピー
成績評価	提出物・態度・確認テスト		
教 科 書	プリントを配布します		

教科書 参考資料	ヨガマットまたはバスタオル		第9回　心地よい診療室づくり・季節に合わせたディスプレイ 第10回 心地よい診療室づくり・フラワーアレンジメントの基礎

分　　野	選択分野	授業概要	【一般目標】 専門的な歯科衛生士業務を修得するために、選択したコースの実習内容を計画し、その学びを充実させることを目的とする。実習の開始前、実習中、終了後の学び方を学習し、臨床・臨地実習に対して主体性を持つ。 【到達目標】 1．実習の目的に合わせてた実習計画を立てることができる。 2．実習に必要な資料を事前に調べまとめることができる。 3．実習の学びをパワーポイントにまとめ、発表できる。 4．自己評価表を使い、実習の振り返りができる。 【授業計画】 第1回　オリエンテーション 第2回　実習準備 第3回　実習記録の書き方 第4回　事前学習 第5回　振り返り 第6回　オリエンテーション 第7回　実習準備 第8回　事前学習 第9回　まとめ 第10回 自己評価
科 目 名	**臨地実習学習法B**		
単　　位	1		
時 間 数	30		
授業回数	180分×10回		
授業形態	演習		
開講年度 時　　期	2022年度 前期		
担当講師 実務経験	増田洋子 歯科衛生士としての実務経験あり		
成績評価	提出物の評価 報告会での発表		
教 科 書 参考資料	プリントを配布します 臨床実習ハンドブック 臨地実習ハンドブック		